

ハクセンシオマネキ成熟オスの行動域

熊本県立荒尾高等学校 2年 永田 翔太

1年 中垣 優人・西尾 美菜・前田 佳歩

1 研究の目的

ハクセンシオマネキ成熟オスのなわばりに関心を持ったのでどこまでほかのオスを追い払うのかほかの個体の巣穴をどこまで埋めるのかそれぞれの行動域を調べようと考えた。

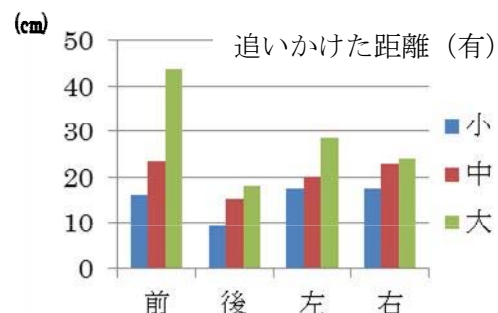
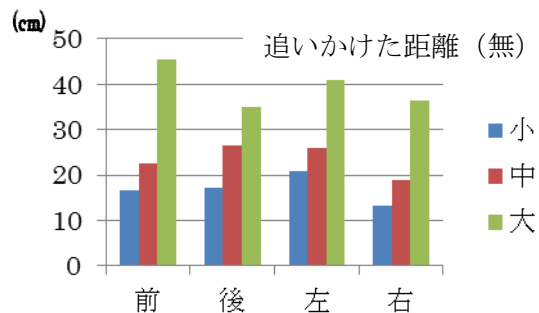
2 実験の方法

- (1) ピアノ線にハサミをつけてハクセンシオマネキに近づけ、追いかけてくる距離を測った。(左から小 20mm 中 25mm 大 30mm)
- (2) ハクセンシオマネキの巣穴の近くに割り箸を刺して人工巣穴を作り、何 cm 離れた人工巣穴まで埋めるかを調べた。

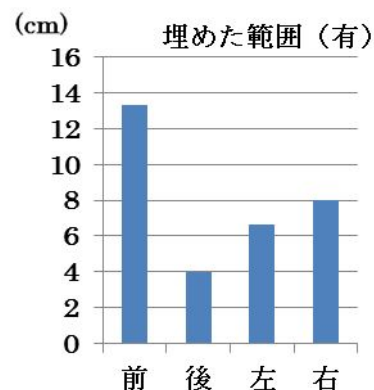
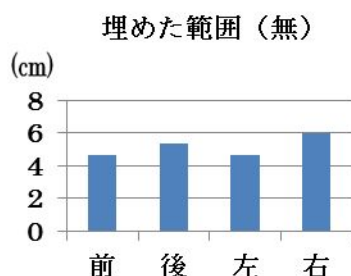


3 実験の結果

- (1) すべての実験において、小<中<大の結果となっており、近づけた距離が大きいほうがより追いかけていた。巣穴の入口に土を盛り上げたセミドームが無しの場合は前後左右ともにほぼ等しくオスハサミを追いかけていた。セミドーム有の場合は前側が長い距離追いかけて、後ろ側が短いという結果になった。左右はほぼ等しい距離を追いかけてきた。



- (2) セミドーム無は全方向同じくらい、セミドーム有はドームがある後ろ側よりも前側を多く埋めていた。



4 実験の考察

- (1) 大きなハサミほど脅威だと感じ長い距離を追いかけていたのだと考えた。この実験からはハクセンシオマネキの甲幅の大きさは、追いかけてくる距離には関係がないものと考えられる。
- (2) セミドーム無の個体は四方とも同じように巣穴を埋めており、円形に縄張りをとっていると考えられる。セミドーム有の雄は、セミドームがある側の縄張りが狭い代わりに、前側を広く楕円形の縄張りを取っていると考えられる。